3月26日・阪神競馬場　毎日杯パドック

小島友実の

あの馬のSTORY

レインボーフラッグ

取材をしていると、各馬なかなか個性的で人それぞれならぬ、馬それぞれ、だなと感じますが、今回はその中でも面白いタイプの馬に出会いました。5月の京都戦で2勝目をマークした、3歳馬のレインボーフラッグです。

管理する小崎憲調教師がこの馬を初めて見たのは一昨年の6月。「ジャングルポケット産駒にしては胴が長すぎず、バランスの良い馬だな」という印象を持ったそうです。

昨年11月に栗東へ入厩。その当時の事を小崎師はこう振り返ります。

「育成段階でも幼い所作を見せていましたが、こっちに移動してからも気性が子供でずっと鳴いていましたね。人間が泣くのは悲しい時や辛い時ですけど、きっとレインボーは馬が恋しくて鳴いているのでしょう。トレセンに入厩した2歳馬が鳴く事は珍しくないけど、環境に慣れていくもの。でもレインボーは調教しながら鳴いて、初戦で跨った小牧騎手によるとレース中も鳴いていたそうですから（苦笑）。ここまで鳴き続ける馬は珍しいですね」

それでも調教での動き自体は水準の時計をマークし、今年1月、京都の芝マイルでデビュー勝ちを収めました。

「確かに調教ではキレのある動きを見せていましたけど、初戦から勝てるとは思っていませんでした。デビュー戦の返し馬も鳴きながら跳ねて、暴走気味でしたからね。でもレースでは鳴きながらもしっかり走って、直線は弾けるように伸びてデビュー勝ち。まだ粗削りの段階なのにこれだけの脚が使えるのかと、能力を感じましたね」

まだクラシックへ間に合うと判断した陣営は次に若駒Sを選択しました。

「少しかかってしまって2番手から。でも勝ったマカヒキとは0.6秒差。そんなに負けていなかったと思います」

次の小倉戦ではハナに立ち逃げたものの、10着に大敗。このレースを見て厩舎ではある取り組みを行いました。

「2戦連続引っかかるレースで、このままだと終わってしまうと感じました。やはり新馬戦のような脚を使うレースをさせたい。だから、小倉戦の後は馬の後ろに入れて我慢させ、脚を使わせる調教を行ってきました」

その効果は早速現れ、毎日杯では勝ち馬のスマートオーディンに次ぐ32秒8の脚で4着。そして5月の京都戦では後方から33秒3の末脚を繰り出し、見事に優勝。昇級した新潟の古町特別では初の古馬相手に32秒4の脚で4着に健闘。ここ数戦のレースぶりを小崎師は、「やはり終いを活かすレースが合っています。まだ完成途上でこれだけのレースが出来るのですから、力がありますね」と評価していました。

取材に行った8月中旬、レインボーフラッグはリフレッシュ放牧中で厩舎にいませんでしたが、担当の影廣雄一調教助手に話を聞く事が出来ました。

「大抵の2歳馬は調教を積んでいくと疲れが出てきて鳴かなくなりますが、この馬は別。調教をこなしながらも飛んだり、跳ねたり、遊んだり。ある意味、体力があると感じました。最近は少し大人になってきましたが、他の馬が先に運動へ行って一頭だけになると、鳴いて寂しがっていますよ。この馬は基本的に馬が好きで遊びたい性格。とは言っても、人間に対しては従順で運動や調教も一度、経験すればきちんと出来ます。やれば出来るはずです（笑）」

今後について小崎師に伺いました。

「現状では芝のマイルが合っていると思うので、9月後半の阪神か10月の京都戦のマイル戦で復帰予定です。気性も馬体もまだ成長する余地が十分ですし、体も丈夫。これだけの脚を使っても今の所脚元の心配はないし、きちんとケアをしているので筋肉のひずみもありません。まだまだオコチャマなので、今後ポカをする事もあるかもしれませんが、レインボーだから仕方ないか、と暖かい目で見てほしいですね（笑）。それでも1000万は勝てるでしょうし、更に上を目指せる馬ですよ」

どこか憎めない、愛くるしいキャラのレインボーフラッグ君。大人になってほしいような、ほしくないような。そう思うのは私だけでしょうか（笑）。

profile
グリーンチャンネル「トラックマンTV」（毎週金曜19:00～20:30）、ラジオNIKKEI「中央競馬実況中継」ほか競馬ファンにはお馴染みの顔。平日は地方競馬、週末は中央競馬、そしてプライベートでも競馬三昧の日々を送る。本業のアナウンスのほかにも、競馬ブックのコラム「小島友実の好奇心keiba それいけ現場」の連載など活躍の場を広げている。